

第6回 福山市学校教育環境検討委員会 概要

【日時】 2025年（令和7年）9月1日（月） 18:30～20:20

【場所】 福山市役所本庁舎3階 大会議室

【出欠】 出席15人 欠席4人

◎委員長、○副委員長

出	◎伊澤 幸洋	福山市立大学教育学部教授	出	橋本 秀基	福山市公立小学校長会会長
出	森 美智代	福山市立大学教育学部教授	出	新谷 陽子	福山市公立中学校長会
出	○佐々木 伸子	安田女子大学理工学部 建築学科教授	欠	土利川 佳保	福山市保育施設保護者会 連合会会長
出	山岡 英樹	福山市自治会連合会副会長 兼事務局長	出	小鼓 悠	福山市私立幼稚園PTA 連合会
出	久保 辰己	福山市自治会連合会副会長	欠	菅田 雅夫	福山商工会議所副会頭
出	高杉 清志	福山市連合民生・児童委員 協議会副会長	欠	金山 節津	市民公募
欠	佐藤 正	福山市交流館長会副会長	出	亀山 マリエ	市民公募
出	三木 智恵	福山市PTA連合会副会長	出	佐藤 有香	市民公募
出	藤原 磨香	福山市PTA連合会松永北 ブロック協議会会長	出	花谷 忠厚	市民公募
出	阿部 勉	福山市PTA連合会			

【概要】

- 1 教育長あいさつ
- 2 福山市学校教育環境検討委員会委員紹介 異動者
- 3 報告・説明
第5回検討委員会の概要
- 3 答申（案）の審議
- 4 その他

委員から出された主な意見

■【諮問事項1】これまでの取組を踏まえた今後の学校再編の在り方について

（1）学校再編の必要性

- ・（過）大規模校についての記載がない。少子化が進んでおり、大きな課題もないとのことであるため、今後も、児童生徒数推計や学校の状況などをみていくこととする。
- ・小規模校には小規模ならではの良さがあり、残すことも考えてほしい。集団が大きくなると、不登校になるこどもが増えるのではないかという不安もある。また、福山市は県内他市と比べて、人口一人当たりに対する教育費が少ないのではないか。もっと教育にお金をかけてほしい。

（3）学校再編を進めるにあたり考慮すべきこと

- ・これまでの取組において、教育委員会は丁寧な取組をしてきている。学校再編の具体の計画を示す際には、早めに、そして、保護者・地域住民の代表者だけでなく、広く周知する必要がある、そのことが伝わる表現にした方がよい。
- ・計画の公表時には、ある程度の詳細を詰めておく必要があると思われるため、対象地域に対して早めに周知することは難しいのではないかと思う。
- ・複合化など学校施設を新設する際には、こどもの数が減少しても、その施設が後にコミュニティの核となるよう、先を見据えた設計にしていくことが必要と考える。

(4) 多様な学びの場の充実

- ・どの地域に住んでいても、子どもたちが自分に合った学びができる環境が望ましいと考えている。答申（案）の「自分に合った学びを選択し、…（略）、多様な学びの場の充実にも引き続き取り組む」は、検討委員会の意見を適切に表現している。

■【諮問事項2】新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について

(1) 学び

- ・ICT教育環境をより充実させていく必要があると思う。例えば、電子黒板は、プロジェクターが固定されており、使用中、板書は半分の面積にしかできない。授業の質の向上のためにも、教員が使いやすいものを検討してもらいたい。
- ・教員は、電子黒板のオン・オフを使い分け、必要なときは大型テレビに投影するなど、工夫しながら授業をしていると思う。
- ・以前の電子黒板は、移動式で台数も限りがあったため、教室のスペースをとり、移動の手間がかかるという課題があった。現在のものは、端末から容易に接続ができ、使用が簡単である。課題としては、遮光カーテンはあるものの、採光によっては画像が見えにくい。
- ・セミナーなどに参加すると、いろいろな学びに対応できる可変的な空間の整備が、学校施設のトレンドになってきているのが分かる。
- ・答申（案）にも記載のとおり、学校再編の対象とならない学校についても、既存施設の長寿命化改修等を計画的に進め、再編校と同レベルの整備を進めることを求めたい。

■【諮問事項3】学校と家庭・地域、企業等が協働した学校運営の在り方について

- ・コミュニティ・スクールがめざす姿である「それぞれの役割のもと責任を果たしていく」ためのガイドラインのようなものがあれば具体的な行動につながっていくと思う。
- ・学校運営協議会では、それぞれの学校・中学校区のめざす子ども像を共有する中で、どのようなことに協力して取り組んでいくかを議論する。各校区によって実状は異なることから、議論を通してそれぞれの役割を明確にしながら取り組んでいくものであると理解した。
- ・「責任を果たす」には、「責任を背負わされる」ではなく、「教育活動を盛り上げる」「積極的に取り組む」という意味が込められている。
- ・学校運営協議会の委員に企業の人がいると、キャリア教育につなげる役割を担ってもらえる。
- ・コミュニティ・スクールは、各地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を充実させていく仕組みであり、地域資源が活用されることで地域にも良い効果が生まれる。Win Winの関係を構築しながら、それぞれが役割と責任を果たしていくことが重要である。
- ・コミュニティ・スクールについて、保護者や地域の認知度を高めることとともに、教職員が理解を深めることが重要である。各プレイヤーが一体となって運営していく必要がある。
- ・学校としても、コミュニティ・スクールの導入に向けて、校区全体で教職員の理解を進めているところである。

まとめ

●諮問事項1

(1) 学校再編の必要性 に追記

- ・25学級以上の大規模校については、当該校の児童生徒数推計等を今後も注視していく。

(3) 学校再編を進めるにあたり考慮すべきこと に追記

- ・学校施設を新設する際には、地域のためになるよう、将来を見据えた設計にしていくことが望ましい。

●諮問事項 2

(1) 学び に追記

■ I C T環境の充実

- ・授業の質の向上のため、デジタル化の進展に合わせ、I C T環境の整備・充実に引き続き取り組む必要がある。

●諮問事項 3

<論点> に追記

- ・学校運営協議会では、それぞれの学校・中学校区のめざす子ども像を共有する中で、どのようなことに協力して取り組んでいくかを議論する。各校区によって実状は異なることから、議論を通してそれぞれの役割を明確にしながら取り組んでいくものであることが分かった。
- ・コミュニティ・スクールは、各地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を充実させていく仕組みであり、地域資源が活用されることで地域にも良い効果が生まれる。協働の取組の中で、それぞれが役割と責任を果たしていくことが重要である。
- ・保護者や地域に、コミュニティ・スクールの認知度を高めることとともに、教職員の理解を進めることが重要である。

●まとめ

- ・本日出された意見の答申への反映については、委員長に一任する。
- ・今後のスケジュールについて（教育委員会）
答申を受けた後、年度内に新たな基本方針を策定し、来年度、具体の計画を示す予定である。